

48年町内交通事故

こどもの飛び出しが第一位
全事故は五二件

車は走らぬ勢とも思われるおとり、人仙は及ばず彫はちまるといふを知らずせん。

この二、三年における光化亭スモッグ分析書でも、その原因を追って見ると、自動車の排気ガスが原因になっている。

しかし、なんどいっても自動車公害のもっとも多大な被害者交通事故である。ここへ私たちが考えるべき問題で、交通事故が一般の道の險とを再認識して、それに対処するための事故を新たに見いだして避けるべきではない。

一宮町に於ける交通事故は、昭和四十七年度では事故件数七千一件、そのうち死者一名、重傷一人、輕傷八名たが、昭和四十八年には事故件数が五件、そのうち死者一名、重傷一名、輕傷六名と減はしていますが、事故原因・目撃せられては、まだ流石の果実を得ず。

四十八年度の当町の事故のうち、やはりトップを占めているのは宮地城の九件、これは国道一号線、養老街道と通上の重要路である。このうち、二件はたぐもの事故、芝の事故、地城別事故等の事故分析とも位置づけられ、

これに次いで国道一号線が場所別では、

四十八年度の全事故件数のうち三百五十七件と多く、年輪的にみると非常に多く、年輪的に多く、三歳までの低学年児童に多い。

時々と示されています。時間的に示されています。

ことこの交通事故（町内）

町内別	件数	死者	重傷	輕傷
宮	10	0	0	1
中	3	0	0	0
山	4	0	0	5



教　い　教　人　り　宮　す　○　四　校　　答　た　が　い　し　に　て　宮　五

第三小学設立の
（仮称）

意見書が答申される

すでに昨の一月で、昭和五十年には小学校の児が今の二階小と一色に入りきなくなってしまうので、第三小校の建設にとりかかべく、みなさんと話し合いを始めたこと紹介し、続いて十一月で説明会からの反響がうであつたからお知らせしたが、教職員から意見書が町に寄せられました。 そのおもなところは、現在の小学校児童数は、二宮小校一、三七四人で五五級、二宮小校一〇二人で六六級なつていまが、昭和四十年になつますと二宮小一、四九人三八級となつて教室が一教室不足します。 また、二色小児童数、三七七人となつて、学級数三学級で二教室不足という事態になつてしまいます。 このようになつてしまつた場合教育目的を達成することは、効率的、個人的、合理的、科学的な学習の推進が図られず、また児童の能力の開發も十分に行きません。 そこで(一)望まぬ教育環境の設定(二)学校規模の適正化、(三)施設整備の充て、(四)教職員の適任職なを目的として、意見書が提出されたわけです。 町としては、この意見書をもとに審議会を軸に、慎重な審議と検討を行ない、理想的な教育施設と教育環境の實現のために、みなさんの意見を重視しつゝ、第三小校の建設を促進して行きたいと思ひます。 ●意見書の各目までの経過 48・10・11 第一回(仮称)第三小校建設促進委員会開催。 48・10・16 二色地区、釜野地区、一色(行徳)地区、二宮(代)地区、中里地区を視察。	48・10・18 中里地区で会を開催。 48・10・19 百谷が丘地区で説明会開催。 48・10・20 柳地地区で会を開催。 48・10・21 川勾地区で会を開催。 48・10・22 釜野地区で会を開催。 48・10・23 茶屋地区で会を開催。 48・10・24 越地地区で会を開催。 48・10・27 中里地区三小校が丘地区で開催。 48・11・22 委員会開催。 48・12・21 町長・意見委員と教育員と、常任委員会との合同開催。 49・1・26 委員会開催。
--	--

町内別	件数	死者	重傷	軽傷
二宮	10	0	0	10
中里	3	0	0	3
山西	4	0	0	5
川勾	1	0	0	1
一色	1	0	0	1
百合が丘	5	0	1	4
合計	24	0	1	24

	件数	死者	重傷	輕傷
管 内	1 6 2	3	1 9	1 8 2
大 磯 町	1 1 0	1	1 4	1 2 0
二 宮 町	5 2	2	5	6 2

児童を下校後、自転車で行き、低学年のこの分はしてきて、低学年の児童が、交通安全教育が家内のしめるエイトがきいて、このうかえ。自転車事故防止の一環として、昨日、自車道（二宮、三宮、二七番地）四、五交差の区間に、設定している交通安全教育の要因を、この自動車事故の新しい方向づけ、この策が、要は、用者の利用方法、利用の側面、価値の受けとり、あるを思ひます。

聞及、警察の方針は、バイコロジの設定は、今後増え、行ら、し、この、行政の課題として、この、あ、び、協働、と、交通、事故、絶、対、防、止、に、対、する、必要、性、あ、る、を、思、ひ、ま、す。

大國、に、ける、非、故、件、数、は、一、件、（前、年、四、十、七、件、）、死、者、一、名、（前、年、五、名、）、重、傷、四、名、（前、年、四、名、）、軽、傷、二、〇、〇、

名(「第一」四名)と、多摩連事故の数は、警署管内の大規模地区でも減少しています。

一言訂では年末、年始にかけて県下一斉に行なわれた飲酒運転追放運動でも、事故数件数一件、その名の死者0名、重傷3名、軽傷3名という記録を示した。

交通事故ゼロを目指すため、今後とも皆さんと一緒に、交通安全意識向上と周知徹底を図っていく、さうと思ひます。

役場の物質節約運動

みなさんのご理

解とご協力を

職員が自ら使っている紙、エンピツ、電気、暖房料などこれらすべて石炭消費によって生産されるものではあります。

産油国は原油供給に割賦による物不足ハニク、これにはいろいろな問題があるのですが、まあ私たちが物を要する切にたげればならぬ時代を認識して、昨年の十月二十六日、金職員に対し、助役連達をもつて物質資源の運動の通商を

資料があらゆる面で使用され節約上大切な事柄ですが、職員一人ひとりとこの自覚に起こすことと師民みなさんの協力と理解が必必要です。

○一般通文書はハニキで用事書でできるものはできるだけハニキで利用する。

※従来まづは封筒に文書を入れてお届けしていましたとが多かったと思いますが、ハニキにする。

指し示した。この内容は次のとおりです。
 ● 電灯対策 年間三六、〇
 ● 分室を節電
 役場、分室、二小学校の三施設の電気料を総務課で支払っていますが、年間の平均が一月四三〇、〇〇〇円、この節約活動で二パーセント削減を念頭に
 ※会議と分類あかい上、封鎖を使用して、ましたが、許されず、使用して古書の再利用を奨励。
 ● 庁内文書 庁内回収等は古紙の裏面使用を奨励。
 ● 不用の品、新聞は「古紙回収箱」に入れ、一括処理する。
 ● 使用済用紙でも内容によらずには

- 昼休み等の電灯では窓際を開けたり、他の室内灯に引き点滅とする。
- 退席時の電灯は各自の責任で消したり消灯する。
- 時間外・残業 を行なう場合、各課一人間の時は他の課と話し、合理化を図る。
- 便所の電灯は使用のつど点滅させる。

暖房対策

期間を三月三十一日までとし、自転車を使用する。

支障のない限り、裏面使用の通行消耗品対策

昭和四十二年度はエンワラの購入はなしなり。現在あるものも期間内各職員ごとに机の中などを調べて使用する。

その他の対策として

- 庁用車使用の場合、近距離駐車場などを利用し、オートバイ急ぎな場合は助走無し、オートバイ自転車を併用する。

①電話使用の場合、要件は簡便に行なう。

②私用で電話を使用した時はあらかじめ使用料を記入する。

③各自において創意工夫をし節約に努める。

以上が、各節約運動の内容です。が、物次第に、使い捨ての簡易節約品が多角形をなすもの、正真正正多角形をなすもの、運動に対し、町民もみなさんご理解の点をよく理解していただき、ご協力を願います。

町 の 動 き

1月1日～1月31日

生の部 小沢行弘さんがそれぞれ優賞しました。

6日 広報編集委員会を開催。

7日 町しいたけ生産組合新年会
を開催。

9日 教育委員と社会文教常任委
員会との合同会議を開催。第
3小学校設立促進委員会の答
申について報告を受け、今後

の問題につき検討した。

21日 交通指導班会議を開催
23日 衛生センター建設特別
会を開催。12月23日入川
区との話し合いの結果を
た候補地に対して今後の
よくについて検討がされ
またボーリングの費用等
報告もされた。
在屯心身障害児生活訓
を開催。
24日 特別職員報酬等審議会

社会教育委員、公民館運営委員、文化財保護委員会合同会議を開催。

小学校入学児童身体検査打合せ。

農業委員会を開催。

衛生委員会を開催。

常任委員会を開催。

第3小学校設立促進委員会を開催。

社会教育委員地区懇談会を開催。

農業共済研修会を開催。

4日	役場始式。	10日	老人クラブ連合会新年会を開催。
5日	賀詞交歓会を開催。福祉センターで、町内の町関係者に より年始の交歓をしました。	11日	二宮小PTA新年会を開催
7日	出初式を開催。参加車10台 参加された方々は、約270人 で盛大に行なわれ、今年は大 磯、二宮町のとび職の方々の まよいとはしこ栗りの演技が ありました。	12日	選挙管理委員会を開催。
9日	在宅身障害児生活訓練会 を開催。	14日	「長寿の里 中郡 二宮」 をテレビ神奈川で放映（18日 に再映）
		15日	成人式を福祉センター大ホ ールで開催。講演会等131人 が参加して開かれました。 ロードレース大会を開催。 一般の部 森二郎さん、中学

